資料1-4

令和6年度
小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定支援業務

# 第4章 管理運営計画の検討

2025年1月24日(金)

小松市
KOMATSU CITY

arg 日本総研

## 4-(1). 管理運営計画の基本方針

## 管理運営計画における基本的な視点

図版ブラッシュアップ予定

未来型図書館では、図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能の融合を目指し、市民が主体的に学び・創造し・交流する場を育みます。このため、以下の視点に基づいて管理運営計画を策定しています。

**図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能の一体的な管理運営**

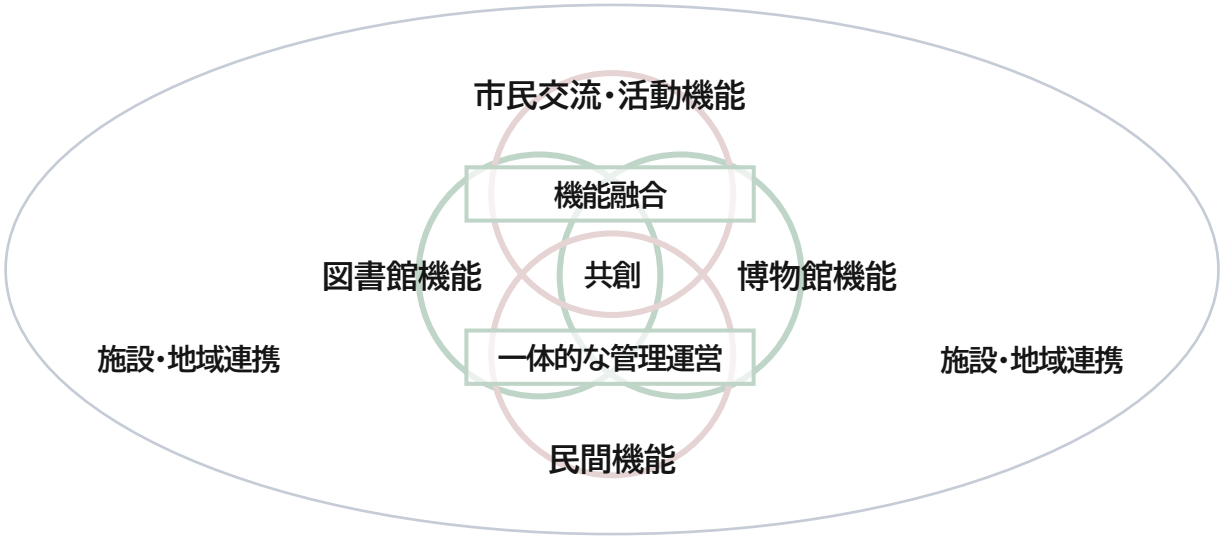
- 施設内の**各機能を分断することなく、相互連携を図りつつ一元的に運営**することで、市民にとって使いやすく魅力的な施設を実現します。

**連携と共創を支える環境としくみ**

- **多様なステークホルダーが協働し、新たな価値を生み出す「共創」を実現**するために、運営体制やしくみを整えます。

**持続可能性と拡張性のある管理運営**

- **社会や技術が変化しても柔軟に対応できる運営体制を構築**し、長期的な視点から施設を維持・発展させます。



## 多機能の一元的運営体制

**複合施設としての総合受付・案内**

- 来館者に対して一括した受付・案内を行い、**利用者が各機能へスムーズにアクセス**できるようにします。

**施設の情報共有と連携強化**

- 施設で計画されるイベントやプログラムを共通システムで管理し、**横断的な情報共有を実施**します。利用者やスタッフがワンストップで情報を得られる仕組みを整えます。

## 資源の有効活用とコスト効率

**人的資源の相互活用**

- 官民連携により、司書、学芸員、コーディネーター（人や団体、情報やプログラムのコーディネートを支援）などがそれぞれの**専門性を活かしながら、複数の機能領域を支援・運営する体制**を構築します。

**設備・システムの共有化**

- 図書館システム・博物館システム（融合機能を含む）や展示・発表機能、交流・活動機能の設備などを、可能な限り**一元的に整備し、効率的な資源の活用**を図ります。

## ワンストップサービスの提供

**利用者の利便性向上**

- 複合施設全体を一体的に運営することで、資料検索から展示観覧、市民活動の相談までを**シームレスにつなげます**。

**統合的プログラムの開発**

- **図書館の資料・博物館の展示・市民活動支援機能を連動させた学習プログラムや体験型イベント**を企画・実施し、利用者の満足度と来館者数の向上を図ります。（たとえば、図書館で関連書籍によるレクチャー～博物館の実物資料を介した歴史・技術体験をふまえて、市民活動支援機能のコーディネーターが地元企業や職人を招き、参加者の創作体験や地域課題解決のアイデア形成を支援するプログラム等）

## 共創プラットフォームの構築

### 市民活動をサポートする環境整備

- **リビングラボは共創のプラットホームとして中心**となり、多様なステークホルダーをつなぐ役割を果たしていきます。
- 市民や団体、事業者等が主体となる活動に必要なスペース・設備・情報リソースを柔軟に提供し、利用者が気軽にイベントやプロジェクトを立ち上げられる環境を用意します。**活動の主体は市民や団体、事業者、施設内のサービス提供者になります**。

### コーディネーターの配置

- 専門スタッフ(司書・学芸員)とともに、コーディネーター(人や団体、情報やプログラムのコーディネートを支援)を配置し、利用者や団体同士をつなぐ役割を担います。**相互のアイデアを組み合わせることで新たな価値を創出**します。

### 共有地としての協働型管理運営

- リビングラボは未来型図書館全体のマネジメント・プロジェクトに横断的に関わる仕組みですが、**特に「共創スペース」「物販スペース」「ビジネス支援スペース」については、共創重点機能・スペース＝共有地に設定し、リビングラボが中心的管理運営者として協働型管理運営を具体化**していきます。
- 共創重点機能・スペース＝共有地においては、リビングラボ主導で、多様な利用者や関係者が集まり、課題やアイデアを共有します。**必要に応じてルール改訂やサービス拡充を行い、協働型管理運営をアップデート**していきます。

## オープンイノベーションの推進

### アイデア公募・試行の仕組み

- 市民や利用者から新しいサービスやプログラムのアイデアを募り、それをもとに**小さな規模で試してみる仕組みを整えます**。

### 行政・民間企業・研究機関との共同研究

- **地域課題の解決や新たな価値創出を目指し**て、官民連携や産学連携を積極的に行います。図書館・博物館の知と市民のアイデアを掛け合わせ、イノベーションを生み出します。

## 長期的視点からの運営方針

**持続可能な財源確保と更新機能への活用**

- 寄付・クラウドファンディング・スポンサーシップなど、**多様な財源を組み合わせて施設の運営資金を確保**します。
- 例えば、新しい展示やコレクションの充実（特別展開催、コレクションの拡充）、教育プログラムの充実（子ども向けプログラム等、次世代の文化的教養を育てる手助け）、技術のアップグレード（デジタルアーカイブの拡張、VR/AR体験）、コラボレーション（アーティストや企業との協働による新しいプロジェクト）など、**更新が必要となる機能に活用**します。

**運営コストの最適化**

- 共通設備やシステムの導入により、**維持管理費を削減しつつサービス品質を向上**させます。環境配慮型の施設設計により、光熱費削減も目指します。

## 社会・技術変化への対応

**デジタル技術への柔軟対応**

- 電子図書館システムやデジタルアーカイブ、オンラインイベントプラットフォームなどを段階的に整備・更新し、**利用者のニーズや技術進化に合わせてサービスを拡張**します。

**モニタリングと改善**

- **事業者が提供する公共サービスの水準を測定・評価し、データを活用した改善**を行います。

## 共創の一環としての参加型評価

**多様なステークホルダーによる評価プロセス**

- 外部的なモニタリングとは別に、**共創プラットホームを含む市民、スタッフ、行政、関連団体が「当事者」として一緒に運営方針やサービス品質を検討・評価するプロセス「参加型評価」を導入**します。

**評価結果の公開と対話的な改善**

- 参加型評価を繰り返すことで、単なる問題指摘にとどまらず、**共創プラットホームを含む多様なステークホルダーの当事者意識を醸成し、継続的に質の高いサービスを提供するための仕組みが育まれます。**

## 4-(2). 重点戦略

## 重点戦略の設定における考え方 1

未来型図書館の管理運営においては、**市民が主体的に参加しながら、図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能の融合を推進**することが求められます。さらに、複合施設としての強みを活かした事業を展開し、地域全体に広がる効果を創出していきます。以下では、重点戦略の設定にあたっての考え方と、その具体的な方向性を示します。

### 1. 小松市の文化や暮らしを反映した目標設定

**地域文化・歴史の継承と発展**

- 小松市の歴史や文化財、産業などを活かしたサービスやプログラムを充実させ、小松のアイデンティティを強化します。

**市民の暮らしに根ざした知の拠点づくり**

- 地域のニーズや生活環境に寄り添ったサービスを提供し、身近で親しみやすい複合施設を目指します。

イメージ

### 2. 共創による新サービス創出・地域ブランド強化

**多様なステークホルダーとの協働**

- 市民、地元企業、NPO、学校、行政が連携し、新しいコンテンツやプログラムを開発することで地域ブランドを高めます。

**地域資源の有効活用**

- 地域の歴史・文化・産業を組み合わせ、デジタル技術なども活用した新たなサービスやイベントを創出します。

イメージ

## 重点戦略の設定における考え方 2

### 3. 融合による利便性向上・維持管理費削減を目指すマネジメント目標

**図書館と博物館機能の一体運営**

- 運営体制や設備を統合し、効率的なサービス提供とコスト削減を同時に実現します。

**持続的な財源確保と経営効率**

- 寄付、スポンサーシップ、指定管理者制度などを活用し、長期にわたる安定的運営を目指します。

イメージ

### 4. 地域に広がる事業展開

**複合施設を拠点とした市民主体の事業**

- 市民が主役となり、館内外で自由に企画やイベントを行える環境を整えます。学校や公民館との連携で、学習やワークショップを地域全体に波及させます。

**周辺文化施設やコミュニティとの連携**

- 美術館・歴史館などとの共同企画や、周辺のコミュニティなどとのコラボイベントを定期的に実施し、館外にも賑わいを生む仕組みをつくります。地域コミュニティ全体で図書館・博物館の機能を共有し、地域に広がる未来型図書館を目指します。

イメージ

## 小松の「未来」を創るための重点戦略

ビジョン・コンセプトに基づく〈3つの小松の「未来」を創る〉という観点及び基本方針から、管理運営計画における重点戦略を整理しました。

### まちを創る

**重点戦略①　多様なネットワークを構築しまちじゅうに架け橋を渡す**

**戦略目標**

小松市の施設やコミュニティ、事業者など多様なステークホルダーが協働するネットワーク(「まちじゅう図書館・博物館」「イノベーターネットワーク」など)を確立します。お互いが支え合い、企画やプロジェクトが生まれやすい環境を整えます。

**重点戦略②　芦城公園を中心としたエリアマネジメントに貢献する**

**戦略目標**

未来型図書館が周辺エリアの拠点施設として機能し、小松駅やまちなかとの回遊性を創出することで、新たな人流と交流を生み出します。これにより、周辺地域の経済・文化活動を活性化し、エリアマネジメントの視点から持続的なまちづくりに貢献します。

### こと・ときを創る

**重点戦略③　機能の融合による新たな知と文化の交流を生み出す**

**戦略目標**

蔵書選定や展示、交流プログラムなどの複数の機能を連携させ、融合施設ならではの体験を提供します。施設全体を舞台にした企画やワークショップを実施することで、利用者が資料・展示・交流活動をシームレスに体験でき、未来型図書館ならではの、知と文化の交流を創出します。

**重点戦略④　DXを活用し多様なコミュニケーションや交流を生みだす**

**戦略目標**

イベント予約や事前チケット販売をオンラインで一元管理することで、スタッフの事務負担を軽減。AIチャットボットや端末を導入し、利用者が自分に合ったイベント・資料・展示を瞬時に検索できる環境を構築します。

### ひとを創る

**重点戦略⑤　子どもや若者を対象に未来を創造する人材を育てる**

**戦略目標**

図書館・博物館が連携し、小中高生や若者の学習支援やキャリア教育を推進します。教育機関や企業と協力し、学びなおしやスタートアップ支援を整備し、新しいアイデアを試せる環境を提供。地域課題解決型プロジェクトにも取り組み、多様な成長機会を生む運営体制を構築します。

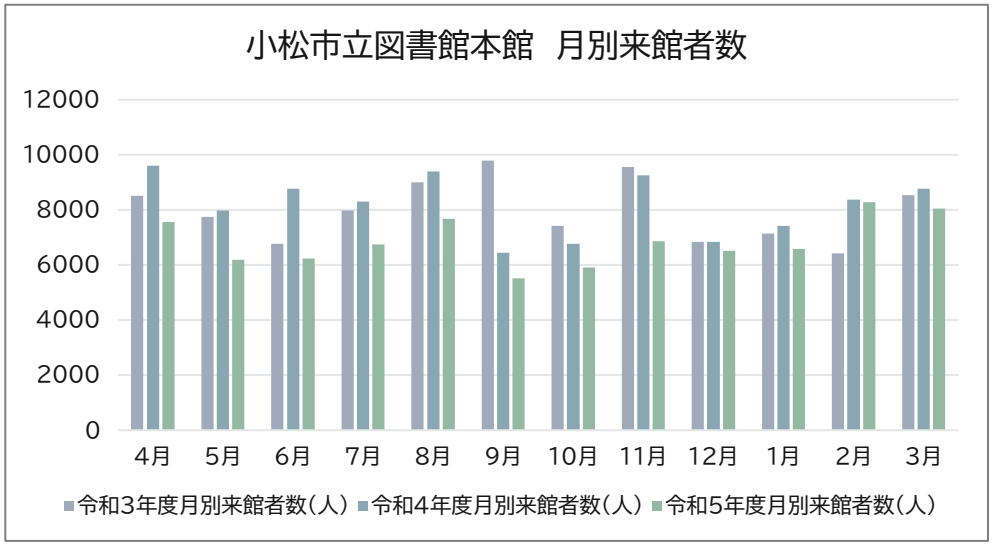
**重点戦略⑥　未来型図書館の魅力を高め運営を支える人材を育てる**

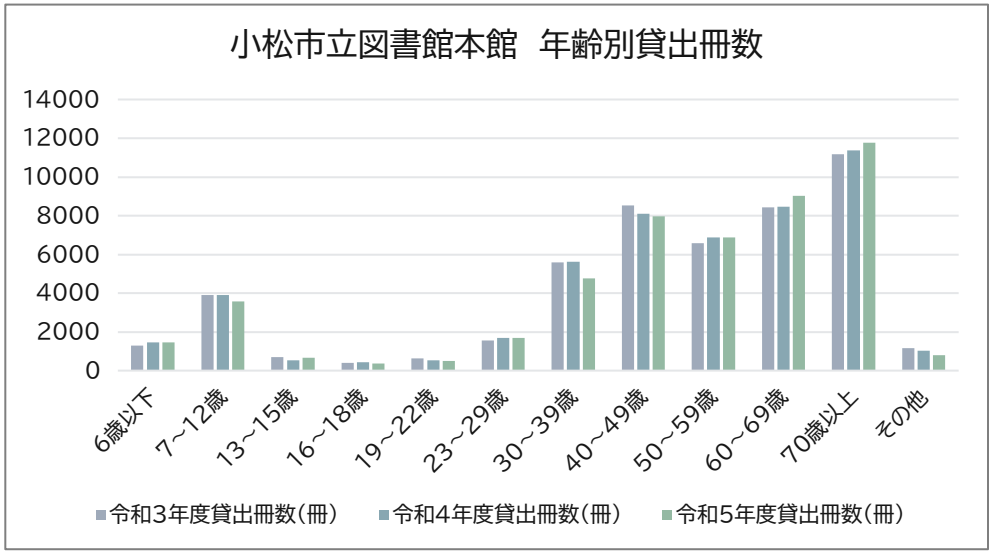
**戦略目標**

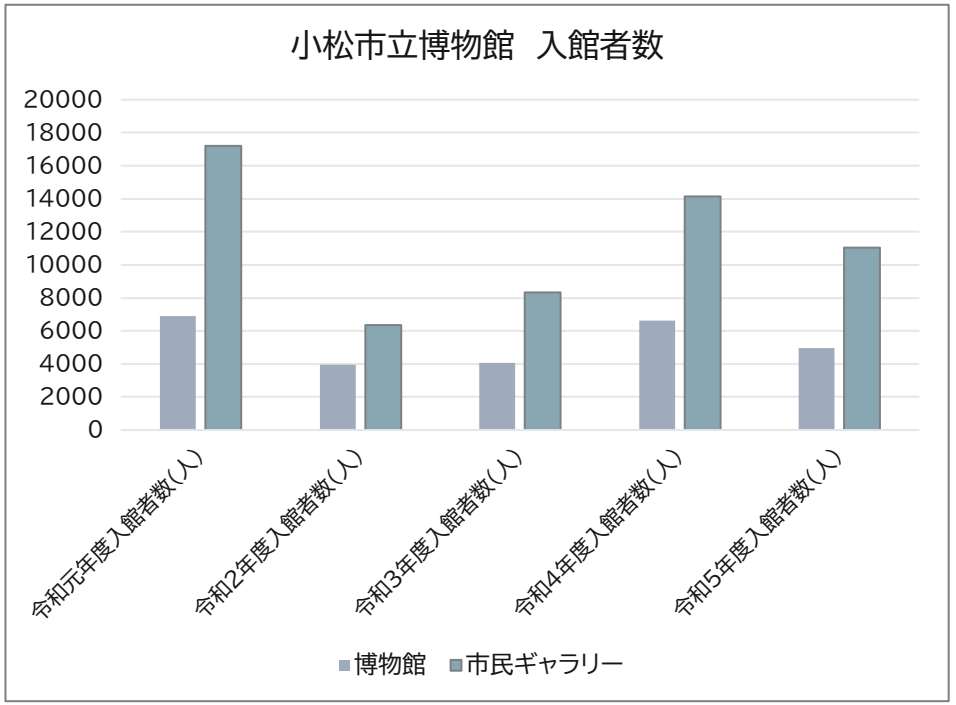
子ども司書や子ども学芸員、市民キュレーター、ファシリテーターなど多面的な機能を有する未来型図書館の企画・運営を支える人材を継続的に育成し、施設の魅力を高めます。

## 4-(3). 想定利用者層及び来館者数拡大の方針

## 小松市立図書館本館　月別来館者数・年齢別貸出冊数／小松市立博物館　入館者




※注釈(小松市立博物館　入館者数)

- 令和元年度:新型コロナで1団体中止
- 令和2年度:新型コロナで18団体中止
- 令和3年度:新型コロナで16団体中止
- 令和5年度:1月より能登半島地震で休館

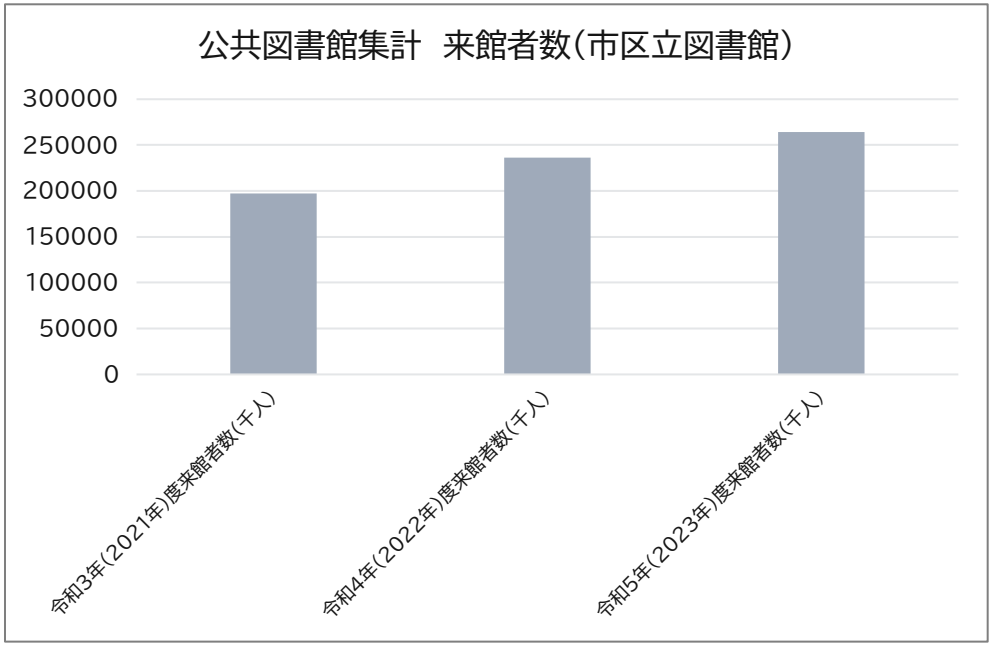
## 図書館、博物館利用者数の現状

**ポストコロナにおける来館者数の推移**

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、**全国的には公共図書館の来館者数が回復傾向にある中、小松市立図書館では、来館者数が減少**しています。
- 小松市立博物館の来館者数は回復傾向にありましたが、今年度は能登半島地震の影響で、令和6年1月から休館、同年6月で施設は廃止となっています。

**若い世代の来館者数の少なさ**

- 小松市立図書館本館の年齢別貸出冊数（新型コロナ以前のデータ）によると、**10～20代の利用者が他の世代に比べ少ない可能性**が示唆されています。（博物館は年齢別データなし）




## 現状の課題

**企画・発信力における課題**

- 現市立図書館・市立博物館との協議においても、**多様な市民ニーズを反映した企画や情報発信に課題を抱えており、スタッフのスキルアップも含めたサービス提供の充実が求められています。**

**デジタル化への対応の遅れ**

- 電子図書館サービスなど、**デジタル時代のニーズに対応する仕組みが不十分であることも、若い世代の来館者数が少ない要因の一つ**と考えられます。

## 多様な利用者層の想定 1

未来型図書館の管理運営においては、市民が主体的に参加しながら「小松らしさ」を活かし、図書館、博物館、市民交流・活動機能の融合を推進することが求められます。さらに、**複合施設としての強みを活かした事業を展開し、地域全体に広がる効果を創出**していきます。以下では、目標来館者数の設定にあたっての考え方と、その具体的な方向性を示します。

**1.　既存の図書館利用者、既存の博物館来館者**

- 読書や資料閲覧、展示観覧を主目的とする従来利用者層。
- 新施設により、図書と展示を往来しやすい導線を整えたり、デジタルアーカイブを活用した学びの強化を図ることで、満足度と滞在時間の向上を目指します。

**2.　利用者層の拡大1：子育て世代、若者世代**

- 子育て支援や学びの場としての充実を図り、親子が一緒に楽しめるプログラム（絵本の読み聞かせ、体験型展示など）を強化。
- 若者世代（10～20代）向けには学習スペースやグコワーキングスペース、SNSとの連動など、デジタルコミュニケーションに対応した環境を整備し、自然に「居場所」となるように計画します。

**3.　利用者層の拡大2：学校関係者（教職員、生徒）**

- 校外学習や地域学習の拠点として、地域の歴史や文化に根ざした学習プログラムを展開。教員や生徒が共同で活用できるワークショップ、共同展示等を企画し、学校図書館機能との連携も強化します。
- 学生ボランティアの受け入れやインターン制度を整え、施設運営や企画に参加してもらうことで、若い世代の視点を取り入れたサービス創出と人材育成につなげます。

## 多様な利用者層の想定 2

**4.　利用者層の拡大3：地域で働く人びと（ビジネスマン、農業者、商店主、起業家、職人、クリエイター）**

- **ビジネス支援**：コワーキングスペースを設けたりネットワーキングイベントを実施することで、ビジネスミーティングや新たなプロジェクトの発信の場として活用。
- **地元産業との連携**：農業者や商店主、職人などが参加し、自身の技術や商品を紹介する展示・販売コーナーやワークショップを定期的に開催。
- **クリエイター支援**：デザインやアート、工芸などの創作に適した設備・ギャラリースペースを整え、表現やコラボレーションを行いやすい環境を構築します。

**5.　利用者層の拡大4：小松市を応援する観光客や関係人口**

- **観光客・関係人口**：国内外からの訪問者に向け、地域の歴史・文化を紹介する多言語対応のコンテンツを提供し、周遊性を高めます。
- **オンラインを通じた利用**：遠隔地からでも図書館・博物館機能の一部を体験できるオンライン展示やデジタル資料閲覧などを拡充し、関係人口の拡大を図ります。

## 目標来館者数について

未来型図書館の年間来館者数を設定するにあたっては、**複合施設としての相乗効果をふまえて算定した機能ごとの予測来館者数を基に、目標来館者数を設定**します。

**目標来館者数の想定**

**図書館機能部：年間34万人（約4,400㎡）**

- 類似施設や統計的指標を基に、図書館機能部の年間来館者数を約34万人と想定。
- 既存図書館と比較して、規模が拡大し、新サービスを導入することで、大幅に利用者が増えると考えられます。

**博物館機能部、その他機能部：年間各3万人**

- 博物館の来館者数や市民交流・活動機能、民間機能（カフェなど）を含むその他機能は、図書館の約1/10の集客力を想定し、博物館機能部で3万人、その他機能部で3万人としています。
- 博物館や市民交流・活動機能、民間機能の魅力向上と付加により、この数字を実現します。

**合計目標来館者数：年間約40万人**

- 図書館機能部（34万人）＋博物館機能部（3万人）＋その他機能部（3万人）の合計値。
- 既存のデータや他施設の実績を参考にした見込みの数字となります。

| 施設名 | 機能 | 面積（㎡） | 目標来館者数 |
|---|---|---|---|
| 小松市未来型図書館等複合施設 | 全体 | 9,000 | **40万人** |
| | 図書館 | 4,400 | **34万人** |
| | 博物館 | 1,400 | **3万人** |
| | その他機能 | 3,200 | **3万人** |

※協力：佐藤翔（同志社大学免許資格課程センター教授）

## 持続的に来館者を増やす・伸ばしていくための考え方 1

### 1.　空間と時間のフレキシビリティを活かした多層的な利用

- **平日(午前／昼過ぎ／夕方／夜)：**子育て世代、未就学児、学生、ビジネスパーソン、シニアなど、多様な人々が必要に応じた時間帯に利用できるよう、スペースを柔軟に区分・運営します。たとえば、午前は親子向けプログラム、夕方は学生の学習支援、夜はビジネス支援や社会活動ミーティングを実施するなど、時間ごとに異なる魅力を発揮し、複数の層を取り込む形をつくります。
- **休日・祝日：**家族連れや若者、観光客にも参加しやすいイベントやワークショップを集中的に企画し、図書館・博物館・民間スペースが一体となって来館者体験を充実させる運営を行います。
- **観光シーズン・大型連休：**市内の他施設や官民連携のプロジェクトと大規模な集客策を打ち出し、観光客や関係人口が積極的に回遊できる仕組みを整えます。

### 2.　融合と連携を通じた共創の推進

- **図書館・博物館・市民交流・民間機能の垣根を低くする：**市民が「今日は図書館だけ」「次は博物館も見る」「カフェで休憩しながらイベントに参加」といった形で、自由に行き来できる動線やサービスを整備し、全体として相乗効果を狙います。
- **多様なステークホルダーとの官民連携：**行政・民間企業・NPO・地域住民などが一緒に企画を立案し、地域のブランド向上につながるイベントやプログラムを継続的に共創することで、新鮮な魅力を絶えず発信し来館者のリピーター化を図ります。

## 持続的に来館者を増やす・伸ばしていくための考え方 2

### 3. 市民参加型の運営で日常的な利用を促す

- **市民の主体的参加・リビングラボ的アプローチ：**図書館の運営に市民が声を出せる場を設ける（ワークショップ、意見交換会など）ことで、「自分の図書館」「わたしたちの施設」と感じられる帰属意識を高めます。
- **「市民の日常になる」公共施設：**学校や家庭、職場などと並ぶ日常の選択肢として、朝活・昼活・夜活の拠点にする、仕事帰りの立ち寄りスポットにするなど、生活圏内の必須施設として機能させます。

### 4. 広報・ブランディング戦略による継続的な誘客

- **多チャンネルでの情報発信：**SNSや地域メディア、広報誌等を活用し、時間帯・曜日・季節ごとのイベントやサービスを分かりやすく発信。市民がタイミングや興味に合わせて利用しやすくします。
- **地域イメージの向上：**博物館やカフェの要素を取り込み、「文化×知×交流」の拠点として地域外にもアピール。観光客や関係人口が増えることで、市民との交流が活性化し、さらなる相乗効果を生み出します。

## 4-(4). 施設利用情報(開館時間・休館日・利用料金等)

## 既存施設の現状

### 小松市の既存施設の開館時間・休館日

| 施設名 | 小松市立図書館本館 | 小松市立博物館 | 小松市公会堂 |
|---|---|---|---|
| 開館時間 | • 平日(3～11月):10:00～19:00<br>• 平日(12～2月):10:00～19:00<br>• 土日祝:10:00～19:00 | 9:00～17:00 | 9:00～22:00 |
| 休館日 | • 毎週月曜日<br>• 特別整理期間<br>• 年末年始(12月29日～1月3日) | • 毎週水曜日<br>• 展示替え期間<br>• 年末年始(12月29日～1月3日) | • 年末年始(12月29日～1月3日) |

### 他自治体の既存施設の開館時間・休館日

| 施設名 | 安城市中心市街地拠点施設 アンフォーレ<br>(愛知県安城市) | 学びの杜ののいち カレード<br>(石川県野々市市) | 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。<br>(新潟県小千谷市) |
|---|---|---|---|
| 開館時間 | ※アンフォーレ1階:9:00～21:00<br>※図書情報館:9:00～20:00(土日祝:9:00～18:00)<br>※ほっとスペース(子育て):10:00～16:00<br>※ビジネスコンシェルジュ:9:00～17:00<br>※フードショップ:9:00～21:00(土日:8:00～21:00) | 9:00～22:00 | 9:00～22:00<br>※屋内広場:9:00～18:00<br>※発アンカー(ものづくり):10:00～17:00<br>※食アンカー(カフェ):10:00～18:00 |
| 休館日 | ※アンフォーレ1階:毎月第2火曜日、年末年始<br>※図書情報館:毎週火曜日、毎月第4金曜日、特別整理期間、年末年始<br>※ほっとスペース(子育て):毎週火曜日、毎月第4金曜日、特別整理期間、年末年始、お盆<br>※ビジネスコンシェルジュ:毎週火曜日・日曜日・祝日、年末年始<br>※フードショップ:年始、お盆 | • 毎週水曜日<br>• 特別整理期間(図書館のみ)<br>• 年末年始(12月29日～1月3日) | • 第2、第4火曜日<br>• 年末年始(12月29日～1月3日)<br>※食アンカー(カフェ):毎週月・火曜日、年末年始 |

## 開館時間・休館日の設定における基本方針

### 1.　すべての市民が利用しやすい開館時間の確保

- 多様な生活リズムや、図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能(カフェ等)それぞれのピークやニーズを考慮し、柔軟な時間設定とします。
- 開館直後から午前中にかけてのプログラムや夜間利用など、幅広い年代・職業層が利用できるよう配慮します。
- 中高校生については、学習支援や居場所という観点から夜間利用も想定しますが、学校とも連携しつつ、安全・安心な環境の確保に配慮します。
- 市民交流・活動の促進の観点から考えると長い開館時間は有効ですが、コストバランスを考慮した上で時間設定を行います。

### 2.　融合施設としての一体感と運営効率の両立

- 可能な範囲で開館時間・休館日を共通化し、施設全体の相乗効果を最大化します。
- 利用者の回遊をスムーズにすることで、「未来型図書館」の複合価値を高めます。
- (機能区分で開館時間が異なる場合)ゾーニング計画を踏まえた管理・運営の容易性を考慮します。

### 3.　持続的な運営を考慮した時間設定

- 人件費や光熱費を含む運営コストを抑えつつ、市民ニーズに応えるバランスを図ります。
- 特別整理期間(図書館)や展示替え期間(博物館)は部分休館とし、メンテナンスや運営効率に配慮します。

## 未来型図書館の開館時間・休館日

### 未来型図書館の開館時間・休館日《A案》

| 施設名 | 小松市未来型図書館 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 機能 | 図書館機能 | 博物館機能 | 市民交流・活動機能 | 民間機能(カフェ等) |
| 開館時間 | 9:00～20:00 | | 9:00～22:00 | 10:00～20:00 |
| 休館日 | ・毎週月曜日<br>・年末年始(12月29日～1月3日)<br>※特別整理期間(図書館)、展示替え期間(博物館)は休館 | | | |

### A案のメリット

- **利用者の回遊がスムーズ:**図書館・博物館とも同じ時間帯で開いているため、利用者は両方を行き来しやすく、複合施設としての一体感が高まります。
- **シンプルでわかりやすい運営:**メイン機能となる図書館・博物館が「9:00～20:00」で統一されており、初めての来館者にも利用時間が認識しやすくなります。

### A案のデメリット

- **コスト増大:**博物館を図書館と同時に長時間開けるため、スタッフ配置や光熱費が大きくなる可能性が高くなります。
- **市民交流・活動機能との時間差:**市民交流・活動機能は22:00まで開放していますが、図書館・博物館機能が20:00に閉館し、そこからの回遊は限定的になります。

## 未来型図書館の開館時間・休館日

### 未来型図書館の開館時間・休館日《B案》

| 施設名 | 小松市未来型図書館 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 機能 | 図書館機能 | 博物館機能 | 市民交流・活動機能 | 民間機能(カフェ等) |
| 開館時間 | 9:00～22:00<br>※コレクションハブ:9:00～22:00 | 9:00～18:00<br>※コレクションハブ:9:00～22:00 | 9:00～22:00 | 10:00～20:00 |
| 休館日 | ・毎週月曜日<br>・年末年始(12月29日～1月3日)<br>※特別整理期間(図書館)、展示替え期間(博物館)は休館 | | | |

**B案のメリット**

- **博物館運営コストの抑制:**博物館を短めの開館にすることで、無理のない運営が実現しやすくなります。
- **長時間利用を重視:**図書館や市民交流機能は22:00まで開いているため、仕事・学校帰りの夜間利用を想定しやすくなります。既存の図書館や博物館の利用者ではない、新しい利用者層にリーチすることができます。

**B案のデメリット**

- **コスト増大:**メインとなる図書館を長時間開けるため、スタッフ配置や光熱費が大きくなる可能性が高くなります。
- **融合施設としてのわかりにくさ:**博物館機能が18:00で終了するため、利用者にとって各機能間で時間がずれ、多機能の回遊がしにくくなります。
- **複合施設の魅力が分散:**図書館、博物館が別々に動いている印象を与える可能性があり、施設全体の一体感や相乗効果が損なわれてしまいます。

## 未来型図書館の開館時間・休館日

### 未来型図書館の開館時間・休館日《C案》

| 施設名 | 小松市未来型図書館 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 機能 | 図書館機能 | 博物館機能 | 市民交流・活動機能 | 民間機能(カフェ等) |
| 開館時間 | 9:00～20:00<br>※コレクションハブ:9:00～20:00 | 9:00～18:00<br>※コレクションハブ:9:00～20:00 | 9:00～22:00 | 10:00～20:00 |
| 休館日 | ・毎週月曜日<br>・年末年始(12月29日～1月3日)<br>※特別整理期間(図書館)、展示替え期間(博物館)は休館 | | | |

### C案のメリット

- **全体運営コストの抑制:**図書館・博物館それぞれ短めの開館時間にすることで、無理のない運営が実現しやすくなります。

### C案のデメリット

- **融合施設としてのわかりにくさ:**すべての機能の開館時間が違うため、利用者にとってわかりにくい複雑な施設に見えてしまいます。
- **複合施設の魅力が分散:**図書館、博物館が別々に動いている印象を与える可能性があり、施設全体の一体感や相乗効果が損なわれてしまいます。

## 開館時間とゾーニングの関係

ダイアグラム検討中

**未来型図書館の開館時間とゾーニングの関係ダイアグラム** ※《C案》をベースに検討

ダイアグラム

## 既存施設の現状

### 小松市の既存施設の利用料金

| 施設名 | 小松市公会堂 | 小松市民センター | 絵本館ホール　夢の本棚 |
|---|---|---|---|
| 利用料金 | 使用料(全日9:00～22:00)<br>• 第1｜第2会議室(各30人):6,700円<br>• 茶室(20人):9,300円<br>• 和室(20人):6,100円<br>• 大ホール(1,078人):平日 72,900円<br>• 大ホール(1,078人):土日祝 87,400円<br>• 特別室(10人):7,100円<br>• ロビー(単独使用の場合・4時間以内):2,000円<br>• 第5・6・7会議室(各20人):6,700円<br>• 大会議室(100人):29,000円 | 使用料(全日9:00～22:00)<br>• 会議室第1｜第2｜第3(224㎡):5,200円<br>• 催事場(107㎡):6,300円<br>• 市民ギャラリー:2,100円 | 使用料(全日9:00～22:00)<br>• ホールシアター(60席):10,500円<br>• スクール(30席):12,600円<br>• 洋室1(数名):2,600円<br>• 洋室2(数名):2,600円<br>※登録文化施設の為使用内容によっては不可の場合有り |

### 他自治体の既存施設の利用料金

| 施設名 | 安城市中心市街地拠点施設 アンフォーレ<br>(愛知県安城市) | 学びの杜ののいち カレード<br>(石川県野々市市) | 須賀川市民交流センター tette<br>(福島県須賀川市) |
|---|---|---|---|
| 利用料金 | 使用料(3時間単位)※設備機器利用料は別途<br>• ホール(225人)平日:4,000～16,100円<br>• ホール(225人)土日祝:5,000～20,100円<br>• 多目的室1:610～2,040円<br>• 多目的室2:830～2,780円<br>• 多目的室3:660～2,180円<br>• 控室兼会議室1:550～1,830円<br>• 控室兼会議室2:560～1,850円<br>• エントランス(展示)1㎡当たり:10～30円<br>※その他屋外区画(願いごと広場)有り | 使用料(1日、または1時間単位)<br>• 市民展示室:11,000円／日<br>• 市民展示室+屋外ギャラリー:13,200円／日<br>• オープンギャラリー:11,000円／日<br>• 音楽スタジオ1時間:1,700円／時間<br>• 研修室・会議室[全室]:2,200円／時間<br>• 研修室・会議室[2分の1]:1,100円／時間<br>• キッチンスタジオ:1,700円／時間<br>• 創作スタジオ1[工房]:1,100円／時間<br>• 創作スタジオ2[陶芸]:1,300円／時間<br>• 電気窯:3,300円／回 | 使用料(1時間単位)<br>• たいまつホール:1,800円<br>• でんぜんホール:800円<br>• ルーム1-1(展示、講演、会議):800円<br>• ルーム3-1(小会議):300円<br>• ルーム3-2｜3-3(工作、会議):400円<br>• クッキングルーム:500円<br>• たたみルーム1｜2:200円／300円<br>• ルーム4-1(ヨガ、ダンス、会議):400円<br>• ルーム4-2(ヨガ、ダンス、会議):800円<br>• ルーム4-3(音楽・ピアノ付):200円<br>• ルーム4-4｜4-5(音楽・楽器付):1,200円<br>• ルーム4-6(音楽・電子ピアノ付):200円<br>• ルーム5-1(会議、講演会):700円 |

## 未来型図書館の利用料金の考え方 1

| コンセプト | 機能 | 室名 | 面積(㎡) | 有料／無料 | 考え方 |
|---|---|---|---|---|---|
| こまつベース | 情報と活動の融合 | コレクションハブ(仮) | 約500 | 無料 | ・図書館機能、及び図書館機能の延長となる機能については無料 |
| | 知の集積 | 開架書架 | 約4,200 | 無料 | |
| | | 閲覧スペース | | | |
| | | その他コーナー、閉架書架 | | | |
| | 「個」の活動 | 個人スペース | 共用部と一体 | 無料 | |
| | くつろぎ・居場所 | 広場・フリースペース | 約100 | 無料 | |
| こまつコモンズ | 知・文化の共有 | 市民交流×ミーティングスペース | 約350 | 有料<br>※占有利用の場合 | ・原則として占有利用の場合は有料<br>・カフェの席の考え方は要検討<br>・物販スペースの考え方は要検討 |
| | 地域の歴史文化の集積・編集 | 展示室、収蔵庫、バックヤード | 約900 | 有料<br>※企画展 | |
| | 体験の共有・交流 | 多目的スペース | 約200 | 有料<br>※占有利用の場合 | |
| | | 飲食スペース・カフェ | 約100 | 有料<br>※カフェ席以外は無料 | |
| | | 物販スペース | 約40 | 有料<br>※チャレンジショップ等検討 | |
| | 施設・地域連携 | 学校連携支援 | 約30 | 無料 | |

## 未来型図書館の利用料金の考え方 2

| コンセプト | 機能 | 室名 | 面積(㎡) | 有料／無料 | 考え方 |
|---|---|---|---|---|---|
| こまつキャンパス | 発信・表現 | 市民ギャラリー | 約300 | 有料 | ・原則として占有利用の場合は有料<br>・子ども、子育て関係の機能は無料<br>・ビジネス支援スペースの考え方は要検討 |
| | 創造 | クリエイティブスタジオ | 約100 | 有料<br>※占有利用の場合 | |
| | | パフォーマンススタジオ（音楽・ダンス） | 約100 | 有料<br>※占有利用の場合 | |
| | | ティーンズスタジオ | 約100 | 無料 | |
| | 子育て支援 | キッズルーム | 約150 | 無料 | |
| | 活動支援 | ビジネス支援スペース | 約50 | 有料 | |
| コンセプト横断 | 活動支援・共創 | リビングラボ | 約180 | 無料 | ・シェア＆オープンスペース |
| 共用部分 | | エントランス | 未定 | 有料／無料 | ・営利活動の場合は有料 |

市民が利用しやすく、持続可能な管理運営を実現するために、上記の考え方に基づき利用料金を検討します。

- **幅広い市民が利用できる公平な料金設定**：多様なニーズに対応しつつ、一部無料枠等を設け、公共性を確保します。
- **利用者の利便性を高める体系**：可能な限り共通の基準や体系を設定し、利用者の利用しやすさ（1時間単位が基本）を優先します。
- **持続的な運営を考慮した料金設定**：市民が負担しやすい料金水準を維持しながら、必要な収益を確保します。

## 4-(5). 組織体制、業務システム

## 組織体制の方針

**1.　価値創出型の官民連携により、密接な協働体制を目指す**

- 民間事業者のノウハウ・主体性を活かした運営を基本に、市と民間事業者が一体となって運営方針やサービスを随時協議し、新たな価値を創出する協働体制を構築します。

**2.　「共創」を核とする運営体制**

- 「こまつリビングラボ」をプラットホームとして、多様なステークホルダーが参加し、アイデアやリソースを結集して新しいサービスを共に作り上げる仕組みを中心に据えます。

**3.　融合を実現する運営体制**

- 図書館機能、博物館機能、市民交流・活動機能、民間機能が互いに連携・補完し合い、利用者がシームレスに複数の機能を体験できるよう運営します。

**4.　他の公共施設や学校との密接な連携**

- 市の他の公共施設や学校などと資料・人材・プログラムを連動させ、相乗効果による地域全体の学びと文化の充実を図ります。特に学校図書館、公立小松大学との連携は重点的に行っていきます。

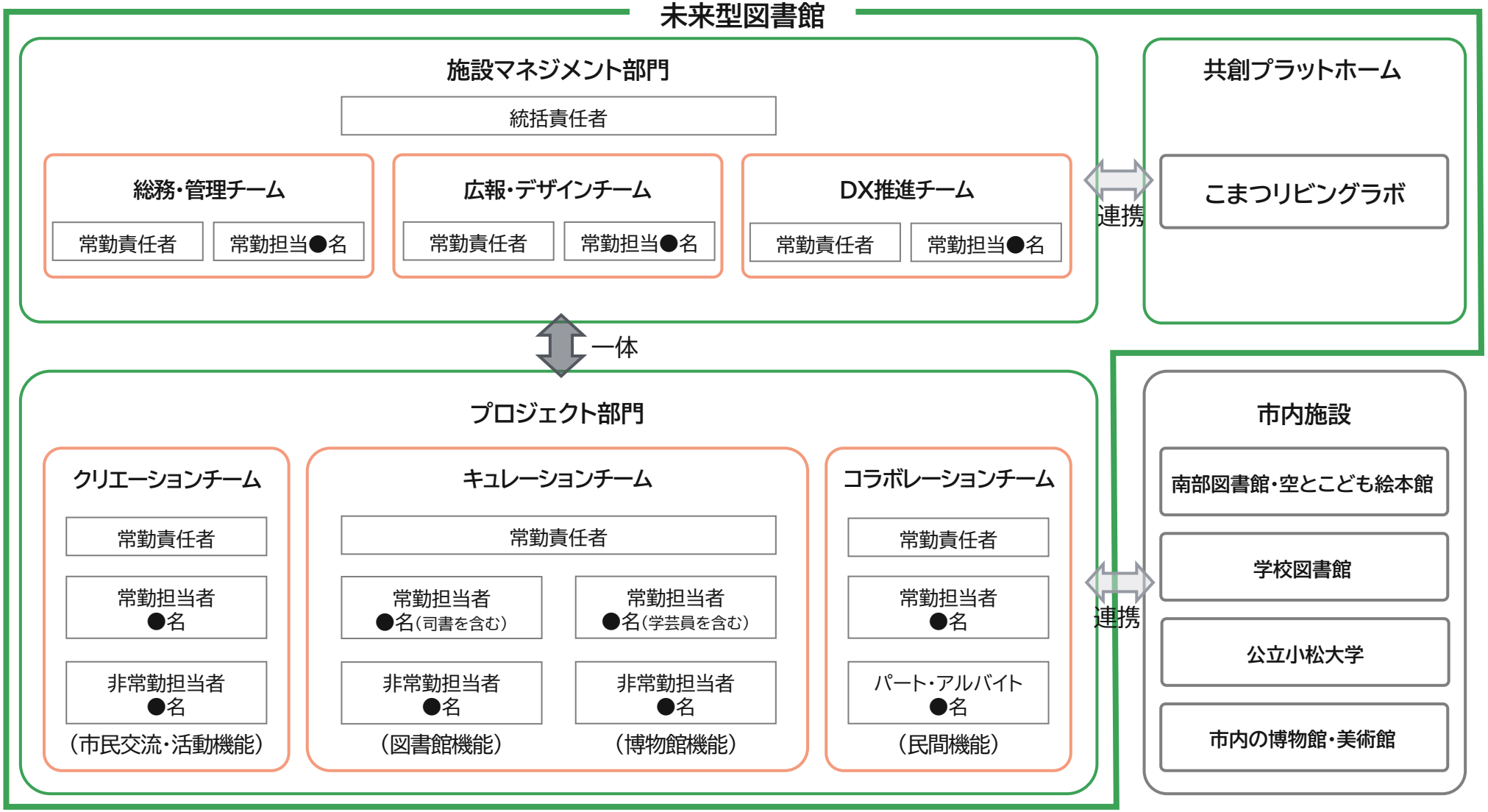
**5.　スタッフの専門性と雇用形態**

- 民間と公共それぞれの知見やスキルを活かせるように、司書や学芸員、コーディネーターなど多様な専門人材を柔軟に配置し、効率性と専門性の両立を目指します。
- 官民連携の枠組みを活用しつつ、正規職員、契約職員、パートタイマーなどの雇用形態を組み合わせ、人材の適材適所を実現します。

20250124更新



## 組織体制



## 体制における役割

### 統括責任者

- 総合プロデューサーとしての役割を担います。

### 総務・管理チーム

- 施設の運営管理（財務、労務、人事、総務など）を統括し、日常業務を円滑に進めます。
- 契約管理や予算執行、スタッフシフト調整を行い、持続可能な運営を確保します。

### 広報・デザインチーム

- 未来型図書館の魅力を対内・対外に発信し、来館者の増加や市民の関心を高めます。
- 情報発信媒体（SNS、広報誌、マスメディア等）を一元的に管理し、イベントやサービス内容の周知を行います。
- 情報発信における共創、市民参加にも積極的に取り組みます。

### DX推進チーム

- 各システム、デジタルアーカイブ、オンライン展示などのICT環境を企画・運用します。
- 職員・来館者に向けたデジタルサービスを管理し、業務効率と利用者の利便性の向上を目指します。

### クリエーションチーム（市民交流・活動機能）

- 日常的な受付・案内役を担います。
- 市民交流や活動を促進するスペース・プログラムを運営し、ワークショップ・講座・イベントなどを企画します。
- 多様な団体や個人が集まりやすい環境を整え、「共創」の場を支えるコーディネーターとして機能します。

### キュレーションチーム（図書館・博物館機能）

- 図書館司書と博物館学芸員の高い専門性の連携により「キュレーション」業務を担うチームです。
- 図書館資料の選書・管理（知の集積）、博物館資料の収集・整理・展示企画（地域の歴史文化の集積・編集）を行い、学びと文化を融合させたプログラムを提供します。
- 資料やメディアを横断的に活用し、多様な世代に向けたレファレンス・レフェラルサービスやを実施します。

### コラボレーションチーム（民間機能）

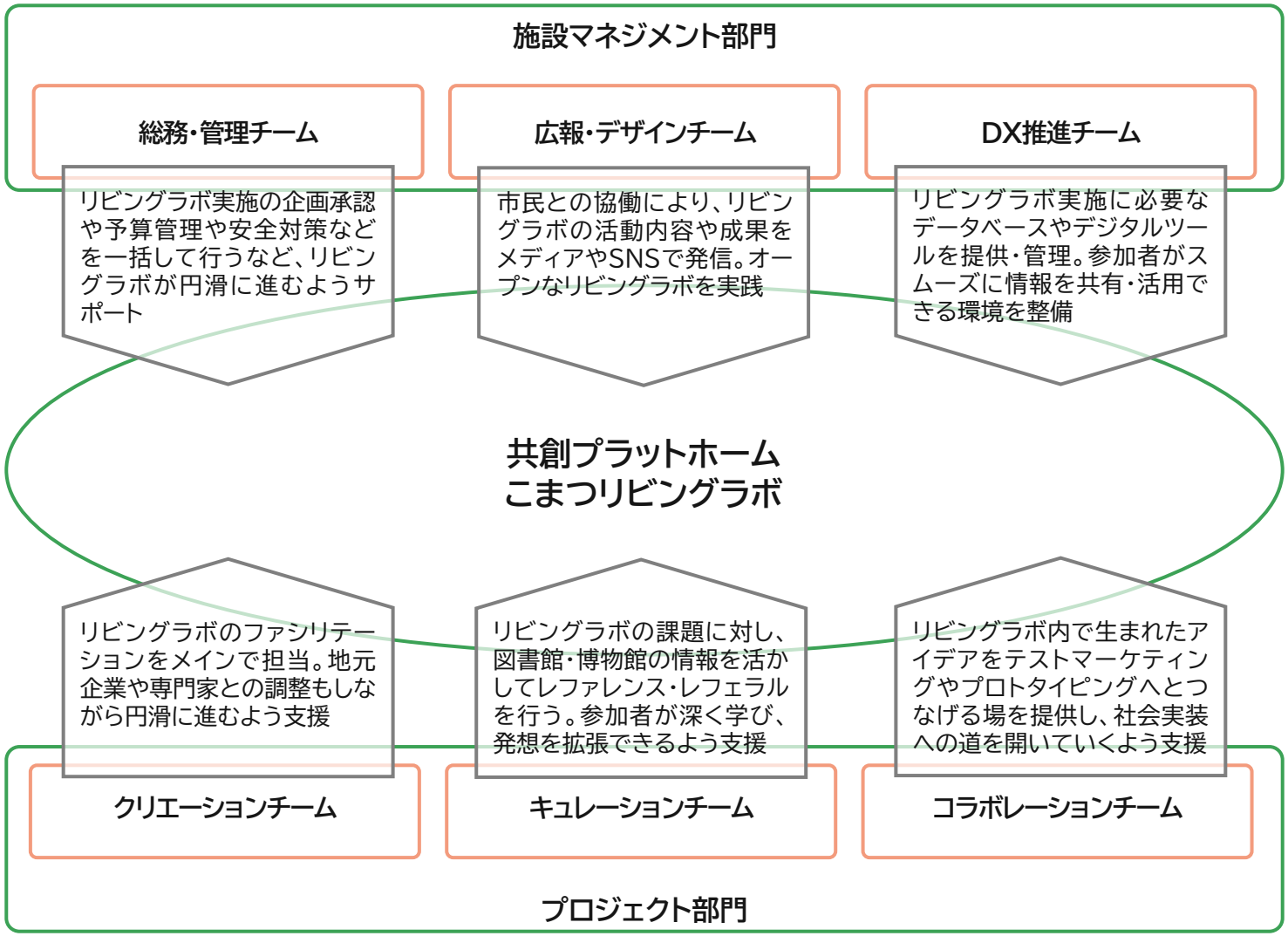
- カフェやショップなどの民間機能を運営し、来館者にとって居心地の良い空間や飲食サービスを提供します。
- 図書館・博物館の企画やイベントと連携し、地域特産品の販売やコラボメニュー開発を行うことで施設全体の魅力を高めます。

キュレーションチーム全体で、南部図書館、絵本館、学校司書、公立小松大学附属図書館との連携を行っていきます。（p30参照）

20250124更新



## 各部門とリビングラボの連携



## 業務システムの方針

### 1. 一体的なシステム構築で複合施設の融合を支援

※「2-(2)-⑦ システムにおける融合の考え方」(p●)を再掲

- 図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能を含む、**複数のサービスを一元的に運用できるプラットフォームを整備し、利用者の利便性と施設全体の連携を強化**します。
- 各システムについては、**オープンかつ拡張性や連携性の高いシステムを導入して、多様な社会ニーズや技術進化に柔軟に対応**します。

### 2. だれもが使いやすいUI/UXを重視し、多様な学びと参加を促進

- スマートフォンやPCなど各種デバイスでの利用を想定し、**シンプルで直感的なユーザーインターフェイスを提供**します。
- AIやデジタルアーカイブを活かした機能を分かりやすく導入し、**市民の創造や学習活動を楽しく・能動的にサポートする仕組みを設計**します。

### 3. 生成AI等の先端技術の活用で地域社会をリード

- AIエージェントがレファレンスや資料検索を支援し、**司書・学芸員を補完する体制を構築**します。
- デジタルアーカイブについては、例えばIIIF(International Image Interoperability Framework)等、**外部機関やオンライン利用と連携しながら地域の文化資源を世界へ発信**できるようにします。

※ IIIF(International Image Interoperability Framework)とは:様々なデジタル画像を統一的に扱い、共有するための国際的な標準規格。博物館のデジタル画像、図書館の古文書の画像、地図の画像など、さまざまな画像を、異なるシステムやソフトウェア間でスムーズにやり取りできるようにするためのルールを定めています。

### 4. スタッフの業務効率と持続的運営の両立

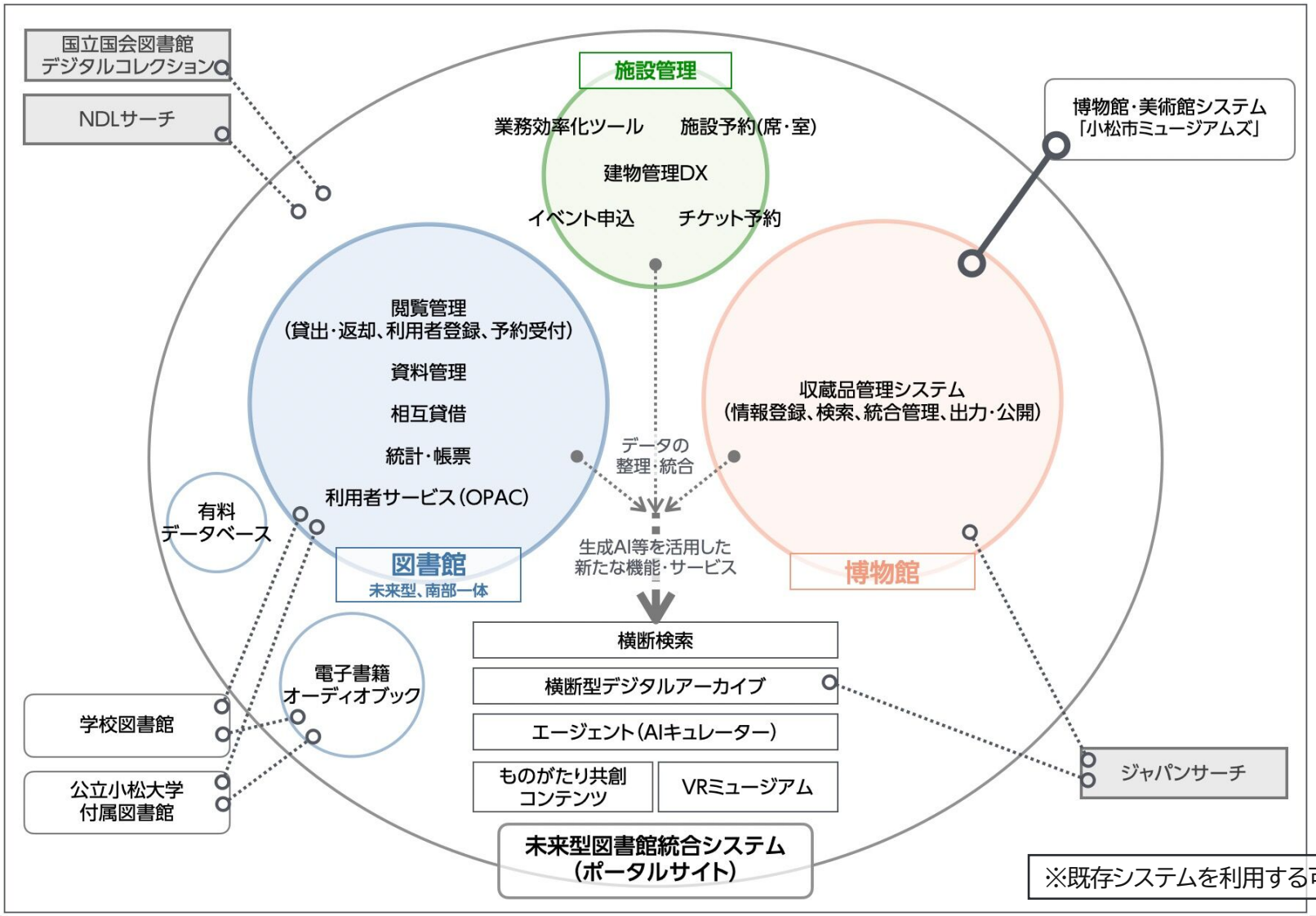
- 業務システムの改善や自動化により、**スタッフがより専門的・人間的な業務(企画・利用者対応など)に注力できる環境を整備**し、公共施設としての品質を高めます。
- 官民連携の枠組みや共創の観点を活かしつつ**公共性を損なわないバランスを保ち、長期的に持続可能なシステム運営**を目指します。

20250124更新



## システム構成イメージ

継続検討中




※既存システムを利用する可能性有り

## システム構成概要

継続検討中

### 1.　各機能の業務を支える3つの基本機能

- **図書館システム**：閲覧管理（貸出・返却、利用者登録、予約受付）、資料管理、相互貸借、統計・帳票、利用者サービス（OPAC）など基本的な機能を整備し、**利用者と司書や職員をサポート**します。
- **博物館システム**：収蔵品管理システム（情報登録、検索、統合管理、出力・公開）を整備し、**利用者と学芸員や職員をサポート**します。
- **施設管理システム**：施設予約（席・室）、イベント申込などの管理機能や内部事務・建物管理DX等を導入し、**利用者の利便性を高めるとともに、業務の効率化を図ります**。

### 2.　生成AI等の技術を活用した未来型図書館統合システム

- 生成AI等の技術を活用し、**図書館や博物館、その他地域の歴史や文化、活動のデータを共通フォーマットで整理・統合**し、データセットを作成し、AIに学習させます。
- 利用者や職員が**自然な言葉で質問できる対話型（言語＋視覚＋聴覚）のインターフェースを整備**し、図書館や博物館、市民交流・活動における新しい利用者体験を提供します。
- 未来型図書館統合システムは、「多様な知識を結びつけ新しい価値の創造」「市民参加型のコンテンツ制作の支援」「地域文化の継承と再発見」などの促進により、**「共創」を具体的に実現する原動力**となります

### 3.　未来型図書館統合システムから生み出す新たな機能・サービス

- みんなで育てていく、成長する機能・サービスとして以下を想定しています。

**横断検索**

- 図書館の蔵書と博物館の資料を一度に検索できる機能。
- 利用者が自然な言葉で質問するだけで、両方の施設にある関連資料を簡単に探すことができます。

**横断型デジタルアーカイブ**

- 図書館と博物館が持つデジタル資料を一元化し、時代やテーマごとに整理されたオンライン閲覧システム。
- 歴史や文化を深く学べる新たな体験を提供します。

**エージェント（AIキュレーター）**

- 利用者の質問や興味に応じて、本や展示物、地域資料を提案する対話型AI。
- 司書と学芸員、両方の専門知識を持ち、レファレンスサービスとレフェラルサービスを提供します。

**ものがたり共創コンテンツ**

- 市民の体験をもとに新しい物語や展示コンテンツを生成。

**VRミュージアム**

- 施設での展示や地域の歴史的な風景を仮想空間で再現。